

「そんなことがあるものか。俺はか
う見ても案外^{あんぐわい}は軽いんだよ。」

船客上陸者
五月廿六日
精治
前日本國
千分金山入港、陸凡一二
文西國船、二隻、第一隻船係太師、永田雄五郎同盛隆、豐正屋、并稱謝同和子、福澤林吉、野原辰男、岡津茂雄、遠坂精幸、村治司、大瀨久等、三隻(二百十四名)

[illegible][illegible]

「お舟、お舟、船頭さんは何處へ行つた？」
と聲をかけました。お舟は蛙にか
う云はれて、
「船頭さん？ 誰の船頭さんだ？」
「誰の船頭さん？ お前の船頭さんだ
よ」
「俺には船頭さんはゐないよ」
「ナニゐない。さうかく、お前は
渡舟ぢやないのかね？」
「渡舟ぢやないよ。お前は渡舟を探
せ」

A black and white illustration of a frog sitting in a circular pond, looking up at a small boat on the water. The frog is in the center of the pond, with its legs spread out. The pond is surrounded by reeds and grass. In the background, there is a small boat with a person inside, and a small building on the shore. The scene is set in a rural area with trees and a fence in the background.

「探してゐるさういふ確かなやないが、お舟を俺は渡舟だと思つたのさ」

「渡舟にやつたらどうするんだ？」

「向岸まで渡して貰はうかと思つたのよ」


「あの向岸までだつてお前は泳げる解に、泳いで行つたら好いぢやないかね」

「泳いで行くのは譯もないことなんだが、渡舟があるなら渡して貰はうかと思つて見たのだよ」

「蛙はかう云ふながら、お舟を見ました。蛙は無進にお舟に乗りうさしましたので、お舟は乗られてはたまらなかつた。蛙は思つてゐるさういふところへ、恰度好い工合に風が吹いて来て、お舟を向岸の方へ吹きやりました。蛙はこれを見て

「さう逃げなくつても好いぢやないか。お前は厭でも、俺はお前に乗つて向岸へ渡りたいんだ。待つて呉れ」と云ひましたが、お舟は風に吹かれて、大分岸から離れた。蛙は

「どうだい。お前一番俺を乗せて向岸へ渡しては呉れないか」
お舟はびつくりしたやうに、

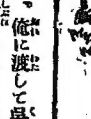


『どうしても厭（いと）か。厭（いと）なら好（よ）しくそんなら泳いで渡るまでさ。』
と云ひながら、岸からびんとお舟の中へ飛びこみました。するとお舟はとどろしを溶（と）け上（あ）り、波（なみ）に揺（ゆ）れて引（ひ）つくり返（かへ）つて、大事（だいじ）な紙（かみ）の刺（さ）れをめつちやうくにしてしまひましたさ。（一たびり）

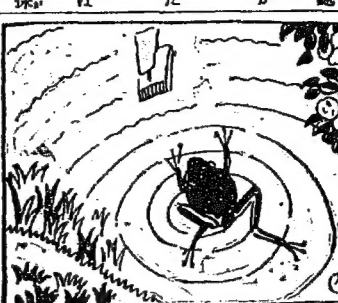
まき
しま

□ 牧の島

「ナニ、俺に渡して呉れ、駄目だよ
俺は渡舟ぢやないんだから、駄目だよ」
「渡舟ぢやなくつたつて構はないぢやないか、さ、さあ、渡して呉れよ／＼乗るよ／＼」
お舟は早口に、



手に附けた地名で本當の地名は絶
島瀬仙洞と云ふのじや相な、此の西
仙洞は東部の二部落に區分
れて居たのであるが近來は住民が
わたり合ひ軒を建て連ねて一寸見て
分らね様に成つて居る西部の住民
主として流業に關係して居るが東
は精米所、製鐵所に働くもの流業
もあれば其れを當てるもの雜貨商
造船廠の大工等が混交して居る爲
西部よりは明並も好く見ゆるが



してやつたりとする事は最もお坊^{ふく}達^だによきしい事業であるから一日

が出来るだらう

大田の現在はまだく目覺ましい

靴履を遂げつゝあるとは云はれぬけれども既に五千円以上の日本人を包攬して居る計日進歩の有様で我々が同胞が増加して行くので、自然生存競争が速くなるに連れ、ボツリボツリと落伍者も出るらしいし、ボツリと時々は天下無雙の行路病人と云ふ厄介なものを享受せられなければならない。未だ行路病人收容所も出来

で赤土地の有志家慈善家も高い處から見物をして居らずに形而下形而下

車中の佐々木道長官

入京中の慶尚道道長官は二十六日の朝の汽車で降任（私の道も近頃、鍊業が勃興してなかくの景氣）とニコニコ「田畑がよくて水産があり、それに山まで豊島ではチト天恵が多過ぎませう」といへば「全くだね」と笑はれる「それ

先だつ救護費の出處もなかつた。
 ては居らず又其の病人を救護するに
 阿比に於てか大田在任の先慈會に
 は何とせかねばなるまいと密々私題
 になつた事もあつたらうし、最近で
 は去る有志で慈善演劇會でも開いて
 其の純益を基本金としてせめては行
 路病人の救護費でもこさねて置かう
 この企てもあつた様だつたが、好事
 魔多しでまた其の實行を見るに至ら
 なかつた。而しそれは時日の問題で



一 反歩二百圓以上とするやうにな
 つた。なになに任那の遺跡か金海や

たうが、（中略）よし今度官報で行路
病人收容所を設立する處には設備費
として金八百圓と外に
○華々何程かの維持費を補助すると
云ふ結構な御布分が出たので、大正
の各宗寺院、布施所等の各主任が坊
主の役目は必らずしも亡び行く人の
霊のみを救済するのでもあるまい、
先づ肉の亡者から助けて見やうじや
ないかと云ふ事になつて、第一回
の協議會は二十二日の午後七時頃から
東江か、あれは水運の便がうだ、沿

からも田中庶務主任が列席して何かと策策する處があつたのだが、其の夜までは具體的の成案は出来なかつた相である。

附近内には第二回の協議會を開き、たれど聲になかつたら三回でも四回でも協議もし研究もするであらう行路病人の收容所をこさねたり救護する人は漁夫でなければ漁夫の家族らしき者前である春夏の候には漁舟に

りて水着もあつて一種の「早稲」永登浦で失職する

何れとも十二分の後援あつて欲しものだ、或る「刀」な者は語つた先だて立派な企てだ、大い

不正漁業者檢舉 郡山警察署に於ては、郡山近海に不正漁

度合を起し、均一の前をばれど、六月

になれば、其の稱面が手に落ちるよ

我かに、其が直つてと手にはなろ


冬になるまゝ鰯の漁舟が集ひ来る爲めに數百隻の漁船と數千人の漁夫は同地に群がらるゝのことで随分其處で賑がな相である、此等の漁夫を常連だのの貸座敷が東西兩部で二十一艘、貸の數が百二十人、其を並べて居る貸座敷と云ふも商家と軒を並べて營業をし居るものが多く東部にハ裏通りに遊歩らしく十軒計り一戸をなして居るも此方は空所が多く矢張り町通りの方が景氣良きそうに

中々の市、其に地一區の賣業者は來年の四月限りに入選をせられ釜山の緑町へ移らねばならぬ爲め住民の一般も同地の景氣に大影響があること其筋に陳情書を提出するやら善後策を腐心して居る相である、最末の次第で漁夫共の唯一の慰へたる娯楽が膚なくつては漁船の出入も自然減少すべく是れは漁船の流夫の懐金も全く他所に持ち往かれては收の島としては立ち滯がないで、今の中にも何ぞか方法を出し

本日に
●大田校の修學旅行、大田常幸等小學校生六年以上の修學旅行は其旅(認可申請中の處)二十五日午前七時學校出發同夜は鶴岡山東龜寺に一泊翌二十六日夜、大田)

日本服は洋服のやうに目立つて格別を要へる事は出来なないが、研究は絶つず行はれて居る。最新の考案で次第に一般に改良されて行く。

大郷吉忠長公、御切腹を爲さるゝと聞いて小姓の友松は大きに驚き、友松はしたが萬一切腹御沙汰あつて上卿生害といふことに至れば氣途の御供は友松仕ります、此の儀様許し下さる様、忠一イヤそれには差止る死するばかりが悲哉でない、此の世土つて何事かをいふとき、案より

 明君道中 第五百五十八

良改
しませう。婦人の著物の襟は、襟肩のところに糸を三本つけ、著るときには襟を折り、その糸を引いて結ぶといふのが今迄の風でありましたが、それでは手数がかゝつて仕方が無い。今度は襟肩の縫目のところに三箇所糸で縫をつくり、反対の側に紐をつけ、襟を折つた時、丁度足袋の紐をはめるやうな具合に引かれます。之れは、

一旦心得違ひをいたしたる忠長、將軍家の御怒に聞れ、即ち御付られるは當然なり、天下の法を明にせざれば

す。所當は理に於いてはありますが、
表に縫目がぼつぼつ出るのですうつ
と疵があらはれ、疵のところに布を
あてゐるといふ事が目につきあり
見よいものではありません。然し、
當をあてぬと縫目がはだかつて見苦
しい上に地質が痛みます。新式のは
疵當をつけない、その代り縫目のく
づれ地の痛みを防ぐために襟から腰
長く布を切り取り、それを以て脊紐
を袋の様に裾からずつと上に縫ひ込

る事で丈夫本位の平常者などには、
並市の尻當をなせるべくたつぶり附け
た方がよろしうございます。

神社とお寺と教會

（五）日蓮宗護國寺（急町三） 廿八日は夜附四
月八日に相當するを以て當日午前七時午後二時
同時三時 歩・殿園 經年部より一徹受持者に
は廿廿の徒皆あり

○典範寺 大和町三二 二十八日 經國院の學
生（寺）は朝より蒲團を敷し 檀越來問がて
茶の椀を盛す

將軍家の威名を汚す、繼ある忠良故族の
事を輕く治むれば豊後執立の輩は之の
批難を受けそれが豊後川の政治亂れ
たりとあつて戒心を弛く様ではなら

[illegible]

選ユツひはいたすまいな 重オモシ御ミ覺かく悟おとせ恐おそれ
入いりましてございます、實じつは將しょう軍ぐん家け

[illegible]

まする。忠、オ重長久である、今
 百阿部備中酒井若狹等城内に見ねな
 る。山じやな。重、ハ、ツ一口をい
 常の如くにて少しもお機りはござい
 ません。然うに御上使阿部備中守此
 の由を御聞きに仰り、御覺悟が宜け
 れば、速々心寺へ御案内を申し上げ
 るといふことでございまして其の由
 安藤重長を以て申し上げると、扶
 御承知遊はされ森新左衛門経恒、
 四郎田村実次郎、神良、越今井友松等五
 人の者へお別れあつて、五人等しく
 御供を願ひ出ました處友松一人許す
 と云ふので外の者は茲に於てお別れ

大心寺へ御出になります
 五月二十九日 九星
 酉四 九日 辛未
 本命二黒坤 漸赤口
 ▲黒 雨御災事 有る日 新事手控 東方は吉 吉
 國坤 ▲二初 短気の事 有る日 縁で 新事手控
 新事手控 有る日 縁で 新事手控 有る日 縁で 新事手控
 のわに 有る日 新事手控 有る日 縁で 新事手控
 を守るべし ▲玉 親切を處て 反て 損となる事
 有る日 新事手控 有る日 縁で 新事手控
 縁居開き 姓名取求 縁居開き 姓名取求 縁居開き 姓名取求
 吉 ▲七赤 吉野の日 縁居開き 姓名取求 縁居開き 姓名取求
 縁居開き 姓名取求 縁居開き 姓名取求 縁居開き 姓名取求
 縁居開き 姓名取求 縁居開き 姓名取求 縁居開き 姓名取求

[illegible][illegible][illegible][illegible]

第三編 第四篇 水戸
 第一節 水戸の概況
 第二節 水戸の歴史
 第三節 水戸の産業
 第四節 水戸の交通
 第五節 水戸の文化
 第六節 水戸の教育
 第七節 水戸の政治
 第八節 水戸の社会
 第九節 水戸の経済
 第十節 水戸の環境

廣 告

漢一銀行 D 小切手振出人 沈相珪
令番號 百〇二四八
日附 大正六年五月二十八日
小切手遺失致候間今後發見候とも
効に付廣告廢也
京城北米倉町一五七

宮崎松次郎

一、廣告係

店員募集

(附)

至急募集す希望者は履
座書携帶本人來談あれ
京坂本町
熊平支店
長電話六二四番

皮革製造販賣
牛皮
山羊皮
高價買入
京釜線大田

大田製革組合
電話長一三四番
電話(夕七)

桃谷研究試驗所創製

美顏白粉



日本一の優良白粉云はる、譯

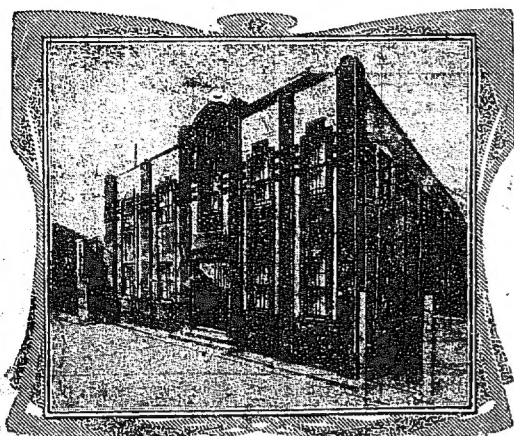
一、從來の白粉より遙かに白からず。そんな白粉
でも比へて見れば分りますが、同じ白粉と言つて
も、美顏白粉は色の白い白粉はありせん。

二、極めて美しい光澤があるからです。既にほんのうの
白さがある顔へ、此美しい光澤を加はるのですから
美顏白粉のお化粧の色艶は驚くらしい色艶でなく、
真に迫つた色艶が出るのです。

三、被覆力が特に強いです。被覆力が強い白粉の
りやうにも、殊に白の化粧を充分に現まし
せんが、被覆力の強い美顏白粉は、其真に迫つた色
艶の美しさを、其儘お化粧に現させます。

四、分子が極めて細いからです。白粉の分子は細い程ム
ラが無く用ゐるものですが美顏白粉の原料には難に定
以上無いといふ分子の細い原料が使つてあります。
斯ういふ大衆で、美顏白粉は高貴の方々の始め、上中
流御家庭にせよ無くならぬ化粧料と言はれて居り
ますのです。

桃谷研究試驗所の外観



名譽ある美顏白粉を創製したる 桃谷研究試驗所

主任 藥學士 桃谷幹次郎
技師 理學士 西澤勇志智
同 醫學士 米倉昌達
同 千葉藥學士 小磯勝次郎
同 藥學士 齋藤銳助
監學博士 丹波敬三氏
醫學博士 山本淳二氏

美顏化粧料本舗 大阪 桃谷順天館

電話(實業)
總務部 土佐堀長六四七番、六四八番、本局特長一六七七番
郵部 南三二八番、四八二七番、下谷五三八番
新橋 二六三九番
振替(大) 東京 二九〇八番

一ケ年の製産高 百萬圓を超ゆ

今や美顏白粉一ケ年の製産高は百萬圓を超ゆ、三都はもとより各地に到る處に於て、第一位の賣行を見るに至りました。貴族方などの中で、從來舶來品以外のものを殆どお用ひにならなかつた方々までが、進んで此白粉を召されるやうになりましたにつけても、如何に此白粉が社會の各部に亘つて範圍廣く其價値を認められてゐるかが解りませう。

産額の多大と賣行の最高とが証する品質の優秀、其優秀なる品質が呼ぶ湧くが如き高評!! 誠にこれ現今總ての婦人の要求に適したる美顏白粉に於て始めて見られる所であります。

行

龍口軍港決定

●侍從武官勳爵
兵大佐渡邊爲太郎氏は侍從武官附
青木祐三氏を隨へ參謀旅行團各武官

石黒男爵題辭・山本瀧之助先生著

棋範日

【有年載類今二百頁餘】
定價四十錢 送料四錢
讀者覽に「二日一善」の著あり、今亦此著を成して全く新らしき修養
の別方法を示す。小冊子なれど、「一日一善」同様其影響する所決し
て夥からざるものあるを自り明せり。特に兒童教養、青年男女指導
の任に在る方々の一讀を希望す。

一日一善

高島平三郎先生著（六版）

逸話の泉

運實長合篇

農村實用文範

青年

發行所
振替口座東京二〇九四番
洛陽堂（目録送呈）

他在奉官員の出迎を受けヤマトホテル口旅館大連等の視察に通じ當なる
ルに投宿同夜在京武官の松鶴軒に於て或は清國より直ちに朝鮮經由臨
ける歡迎宴會臨みたり而して二十五東するや否や猶未定なり（未完）

資本金壹百萬圓

不動產抵
當ニテ長
明低利ノ
貸出致候

株式京城
會社漢湖農工銀行
支配人遠山

支店開城、春川、大田、江景、公州
所在地、清州、忠州、論山、鐵原、烏致院
普通銀行業務に確實親切に御取扱可申候

南滿洲鐵道株式會社調查課編纂

滿蒙現勢圖

著者石坂三三氏寸値二尺六寸
折込金具附製金銀五錢
本圖は滿蒙並に之を接する西伯利亞東亞細亞地方
人文地理社會經濟の關係に保つて地形を以て南滿洲
省問題の即ち行政區域行政官署所在地外交その他時
事問題を生ぜしむる點に於て權衡無比なり
事項は若くは生ぜしむる點に於て權衡無比なり
異の新地圖の材料に據りて考證精査を遂げたり
でたりと雖も本圖の如く根本的に各種の編輯上
に便益を極めたるものなし、大陸の富源に著眼する
の土は固より各學校、官衙、軍隊、銀行、會社等は速か
に備へて教育上、商務上、主大の利を擡ぐべき也。

民國帝大東日
導指の展發的陸大

警官養成
講習會
講習會編纂警官必讀書
金四十五錢にて希望者に頒本す

●パ首相の戦争終局観

パ首相は戦争終局は今秋なるべしと確信し居る。米政府は二十日、米海軍省に提出した。米海軍省は二十日、米海軍省に提出した。米海軍省は二十日、米海軍省に提出した。

●米國對敵通商案提出

米政府は二十日、米海軍省に提出した。米海軍省は二十日、米海軍省に提出した。米海軍省は二十日、米海軍省に提出した。

●成都危險刻々迫る

租税土兵に奪はれる。財政廳の支拂停止。四川省成都に於ける危険は刻々迫る。四川省成都に於ける危険は刻々迫る。

●記念日祭典

二十七日は海軍記念日。就き築地水。二十七日は海軍記念日。就き築地水。

●武術試合大覽

天皇陛下は武術試合の恩恵を。天皇陛下は武術試合の恩恵を。

●王世子慰勞宴

李王世子殿下は二十七日午後。李王世子殿下は二十七日午後。

●米大使遺骸著

昨朝の如く、故前駐日米大使ガ。昨朝の如く、故前駐日米大使ガ。

●大隈侯爵著版

大隈侯爵は二十七日午後。大隈侯爵は二十七日午後。

●首相訓諭全文

寺内閣は、官制の變更を願ひ。寺内閣は、官制の變更を願ひ。

●御眞影奉安

今、御眞影が奉安された。今、御眞影が奉安された。

●一官吏たるの品位を

格守する事。格守する事。

●總督水原視察

長谷川總督は、水原視察。長谷川總督は、水原視察。

●製煙輸出激増

本年三月の製煙輸出は。本年三月の製煙輸出は。

●大連より啓上

大連の製煙事業は。大連の製煙事業は。

●北鮮の海運界

北鮮の海運界は。北鮮の海運界は。

●客中釜山輪船出米

釜山港に於ける客中輪船。釜山港に於ける客中輪船。

●組合員選挙結果

組合員選挙の結果は。組合員選挙の結果は。

●金山橋落成式

金山橋の落成式は。金山橋の落成式は。

●検査押捺日割

検査押捺の日割は。検査押捺の日割は。

●大連埠頭問題

大連埠頭の問題は。大連埠頭の問題は。

●宗教祭典運動會

宗教祭典運動會は。宗教祭典運動會は。

●南宮北語

南宮北語は。南宮北語は。

●棉作状況調査

棉作状況調査の結果は。棉作状況調査の結果は。

●人事消息

人事消息は。人事消息は。

●南宮北語

南宮北語は。南宮北語は。

●南宮北語

南宮北語は。南宮北語は。

●南宮北語

南宮北語は。南宮北語は。

●南宮北語

南宮北語は。南宮北語は。

●南宮北語

南宮北語は。南宮北語は。

家庭雑誌

家庭雑誌は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

家庭雑誌は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

家庭娛樂

家庭娛樂は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

家庭娛樂は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

春の訪れ

春の訪れは、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

春の訪れは、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

活動寫眞

活動寫眞は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

活動寫眞は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

家庭娛樂

家庭娛樂は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

家庭娛樂は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

家庭娛樂

家庭娛樂は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

家庭娛樂は、家庭の生活を豊かにするための雑誌です。家庭の生活を豊かにするための雑誌です。

品質本位主義

品質本位主義は、品質を重視する主義です。品質を重視する主義です。

品質本位主義は、品質を重視する主義です。品質を重視する主義です。

信用第一主義

信用第一主義は、信用を重視する主義です。信用を重視する主義です。

信用第一主義は、信用を重視する主義です。信用を重視する主義です。

養蠶用諸器械

養蠶用諸器械は、養蠶に使用する器械です。養蠶に使用する器械です。

養蠶用諸器械は、養蠶に使用する器械です。養蠶に使用する器械です。

農具工場

農具工場は、農具を製造する工場です。農具を製造する工場です。

農具工場は、農具を製造する工場です。農具を製造する工場です。

社名合藤首

社名合藤首は、社名を合藤首とする会社です。社名を合藤首とする会社です。

社名合藤首は、社名を合藤首とする会社です。社名を合藤首とする会社です。

店支城京藤首

店支城京藤首は、店支を城京藤首とする店支です。店支を城京藤首とする店支です。

店支城京藤首は、店支を城京藤首とする店支です。店支を城京藤首とする店支です。

店支山釜藤首

店支山釜藤首は、店支を山釜藤首とする店支です。店支を山釜藤首とする店支です。

店支山釜藤首は、店支を山釜藤首とする店支です。店支を山釜藤首とする店支です。

1

擇撰の油醬
 東關へ給み試
 に國全高造釀
 高造釀の大最
 買購の大最

五

記念日

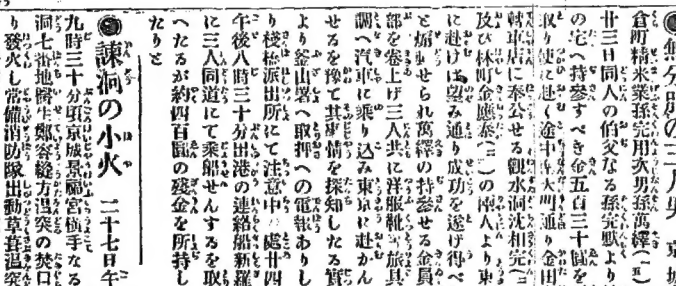
三

下木七郎 野明治町 特約

豐
偉
丁
商

町日
造釀門
店

THE

[illegible]

町田野國總下
造釀門衛右郎七木茂
店目丁一町治明
店商野
番三五二話電

記念日



祝海軍

損の中年はる誤を擇撰の油醬
油醬クハキ品絶の一唯東關へ給み試
石千二萬六額年りた冠に國全高造釀
りけ基に力買購の大最は高造釀の大最
設實の越優質品は力買購の大最

